

新年のごあいさつ

北海道コンピュータ関連産業健康保険組合

理事長 中村 真規



新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も景気は緩やかな回復基調が続く見通しのなか、当健康保険組合では、今年度新たに9事業所が加入し、総事業所数180社、被保険者数約9,150人、ご家族を含めると加入者が約14,560人となり、皆さまの健康管理を含めた効率的・効果的な保健事業の実施に努めているところです。

昨年9月8日健保連が公表した「平成28年度健保組合の決算見込の概要」では、健保組合全体で保険給付費の伸びが鈍化し、拠出金の精算もあったため、経常収支は前年度比で1,094億円改善しております。しかしながら健保財政の改善は一時的なものであり、後期高齢者の支援金の全面総報酬割の導入等や、団塊の世代が75歳を迎える2025年には、健保組合全体の拠出金総額が、みなさんが病気やケガをしたときに支払われる保険給付費を上回ることが見込まれる状況です。

この様な中、当健保組合ではさらなる充実を目指し、平成30年度から第二期データヘルス計画、第三期特定健診・保健指導もスタートします。今後も、より実効性のある保健事業につながるよう、加入事業所とコミュニケーションをとりながら取り組んでまいりますので、皆さまにはこれらを是非ご利用頂きながら、“健診は必ず受ける”等、積極的に健康保険組合の事業にご参加いただき、本年も健やかに過ごしていただきたいと思います。

共済会では、家庭常備薬や健康飲料の斡旋、海外旅行や契約保養所及びJTBの補助、劇団四季ミュージカル鑑賞、北海道日本ハムファイターズ等のスポーツ観戦、健康センター日帰り温泉の助成も大変ご好評をいただいております。こちらも皆さまのご要望を取り入れながら事業を実施してまいりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。本年も皆さま方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。